

加藤 晴明 高校生

(愛知県西尾市) 17歳

(愛知県西尾市) 17歳
修学旅行で訪れた沖縄は、自然が豊かで、とてもきれいな海が広がっていた。美ら海水族館では沖縄でしか見られないという変わった魚がいた。名物の沖縄そばを食べて本土とは全く違う食文化に驚いた。南の島の

心に残る沖縄の食文化

(愛知県西尾市) 17歳
一泊二日の修学旅行で沖縄に行きました。特に私の心に残ったものは、口噴食べているものとは全く異なつていた沖縄の食文化でした。
最初に食べたのは味付けした豚肉が入ったソーキそばでした。見た目はうどんのようでしたが、口にしてみたら少し違った食感がしました。とてもおいしかったです。
一日目にはタコスの具を

ス」を食べました。初めて食べましたが、ケチャップの味がとても強く、またそれが絶妙で食べやすかったです。

二日間体験した沖縄の文化で私が特に気に入ったのはアイスクリームです。マンゴーや紅いもなど、いろいろな種類を食べました。が、どれも南国ならではの味でじわっと口の中に広がつていく匂いと香りは本当にたまりませんでした。また沖縄に行きたいな。

沖縄のイメージといえば昔激しい戦争があつたこと、海がものかくされいで、とても暑い場所ぐらいでした。 実際に訪れてみて僕の思考、考え方は百八十度変わりました。

七十余年前の戦争を経験された人の話を聞きました。たくさんの人人がそれこそ次々と銃で撃たれ、空から落とされた爆弾で吹き飛ばされたなどして命を落と

沖縄の見方 180度変わる

（愛知県西尾市）17歳
修学旅行で訪れるまでの沖縄のイメージといえば昔激しい戦争があつたこと、海がものすごくきれいだととても暑い場所ぐらいでした。
実際に訪れてみて僕の見方、考え方は百八十度変わりました。
七十余年前の戦争を経験された人の話を聞きました。たくさんの人たちがそれこそ次々と銃で撃たれ、空から落とされた爆弾で吹き飛ばされるなどして命を落とす

してしまった。血がを余儀なくされた人もいまして。今では想像ができるないようなことが沖縄で起きたいたことがよく分かりました。そんな沖縄戦の犠牲があつたからこそ今の日本があるのです。そして僕たちは今、平和を享受できているのです。

一度どこんな悲しいことが起きないよう、僕たちが沖縄であつたことを後世に確実に継承していくなければなりません。修学旅行先の南の島で僕はひとつ強く感じました。

沖縄戦 胸を刺す生の声

中嶋 佐輔 高校生 (愛知県西尾市) 16歳
（一九四五（昭和二十）年五月二十八日、米軍によつて沖縄の首里城は陥落しました。七十四年後のその日、僕は修学旅行で訪れた沖縄にいました。そこで沖縄戦を体験した女性は僕たちに「つ言いました。「平和をみんなで築き上げるのです」と。

女性の話から沖縄であるとき何があつたのかがよく分かりました。教科書をいくら読んでも絶対に理解できない戦時中の沖縄の苦しみを、悲しさが僕の胸に突き刺さりました。

戦争が終わつてもマラリアなどの病気で沖縄の人たちは次々と命を落としました。沖縄は戦後の「十七八年、米国の一都となり、沖縄の人たちは生きるために何でもしなければならなかつたそうです。

たとえどんなに悲しいことがあつても、命がある限り決してくじけたり諦めたりしては駄目なのです。最後まで頑張り続けることが必要なことを、僕は沖縄の人たちから学びました。

中嶋 哲輔 高校生 (愛知県西尾市) 16歳
一九四五(昭和二十)年五月二十八日、米軍によつて沖縄の首里城は陥落しました。七十四年後のその日、僕は修学旅行で訪れた沖縄にいました。そこで沖縄戦を体験した女性は僕たちに「つ言いました。「平和をみんなで築き上げるのです」と。
女性の話から沖縄であるとき何があつたのかがよく分かりました。教科書をいくら読んでも絶対に理解できない戦時中の沖縄の苦しみを、悲しさが僕の胸に突き刺さりました。
戦争が終わつてもマラリアなどの病気で沖縄の人たちは次々と命を落としました。沖縄は戦後の「十七八年、米国の一都となり、沖縄の人たちは生きるために何でもしなければならなかつたそうです。
たとえどんなに悲しいことがあつても、命がある限り決してくじけたり諦めたりしては駄目なのです。最後まで頑張り続けることが必要なことを、僕は沖縄の人たちから学びました。

地面は死体だらけだったそ
うです。家族や友だちが爆
弾で飛ばされても、何とも
することができなかつたと
いいおもす。
翻つて今の私たちはとて
も平和な日々に暮らしてい
ます。いつでも笑つ」とが

はしないといのちです。考えたくはないですが、近い将来、かつての沖縄戦に似た状況を体験するかもしれません。だからこそ私は今の平和な日本に感謝しつつ、今この瞬間を大切にしたいです。もちろん一度と日本で戦争がないことを祈りながら。

七十余年前の沖縄戦で亡くなつた全員の名前が石に刻まれていました。それを見ただけであの戦争の悲惨さがダイレクトに伝わってきました。戦争体験者の話を聞いて空から雨のよみに降

ひめゆりの悲劇に衝撃

高畠 心 高校生
(愛知県西尾市) 16歳

修学旅行で訪れた沖縄で、平和の大切さをかみしめました。沖縄戦の体験談はとても考えられないことばかりでした。

平和祈念公園には沖縄戦で亡くなられた方の名前が彫ってありました。数え切れないのでたくさんの方の名前があり、どれだけ悲惨なものであつたかが思い知らされました。

現代の私たち学生は当たり前のようになじみ飯をおなか

いへば、ほんまに食へることができない
ように授業を受けて友達と一緒にしゃべることができていま
す。でもそれは七十余年前の沖縄では決して当たり前のことではなかつたので
す。そんな昔の方々の苦労があつたからこそ今の日本
があります。

尾崎 紅葉 高校生 (愛知県西尾市) 16歳
修学旅行で沖縄を訪れて、まことにあの戦争は私の心中で、まひとつピンときていました。ひめゆりの塔を見学し資料館で見たり聞いたりしたことは想像を絶するものでとても衝撃を感じました。
現在の私がくらいの年齢で学生は強制的に戦争へ連れていかれました。親にも命を絶つてしまふほどの恐怖を経験したのです。田の前で友達や家事が亡くなつた場面もあつ

の米国の猛攻撃を受けた上、島は日本本土の「捨て石」ともされ、沖縄の人多くの命が失われた。島は伝えていく

あつていいのか。
僕らは沖縄でうかがつたことを、多くの人に伝えていかなければならない。さもないと戦争で無念にも亡くなつた人は報われない気がする。そんな先人の死を無駄にしないことが現代を生きる僕らの使命なのだと